

「知事とのフレッシュトーク」（平成２２年１１月１１日実施）の概要について

「知事とのフレッシュトーク」は、知事が高校生の皆さんと県の未来について意見交換を行うものです。

平成２２年１１月１１日（木）に五所川原市の県立五所川原農林高等学校において実施した、「知事とのフレッシュトーク」の概要をお知らせします。

五所川原農林高等学校の概要

明治３５年に北津軽郡立農学校として設立され、昭和２３年に青森県立五所川原農林高等学校に改称。現在は生物生産科、森林科学科、環境土木科、食品科学科、生活科学科の５学科が設置され、「正剛明朗」の校訓のもと、５１３名の生徒が学んでいる。

◆知事入場◆

立佞武多と囃子の演奏で出迎え。



◆開催◆

知事（始めのあいさつ）

今日は、皆さんと一緒に同じ時間を過ごせることを、とても楽しみに思っています。生徒の皆さん、ちゃんと青春していますか。高校時代というのが、今振り返っても一番楽しかったです。５００名の諸君らとこうして話ができることを、本当にうれしく思います。

◆生徒による農業クラブの取組と学科の紹介◆

紹介者 1

青森県立五所川原農林高等学校農業クラブの活動紹介を行いたいと思います。まず、農業クラブとは全国の農業高校で組織する団体で、60年の歴史があり、全国に約91,000人のクラブ員がいます。青森県内には7つの組織があります。

農業高校では、学校の特長を活かしたプログラム学習の推進に取り組んでいます。本校農業クラブは、基本5学科から編成され、クラブ員は10月末現在で513名、県内農業高校では2番目に大きい学校です。なお、県内には6校1校舎で、2,165名のクラブ員がいます。

本校の各学科について簡単に紹介します。

まずは食品科学科になります。赤いりんごの学校加工品は、本校の特産品です。

次に生活科学科です。農業と生活の関連や発展について、幅広く学んでいます。

次に農業土木・環境土木科です。土木知識を基本に、環境問題についても熱心に取り組んでいます。

次に森林科学・林業科です。県内唯一の林業系学科として、森林の役割と資源としての有効活用、環境について学びます。

最後に生物生産科です。農業生産に関する知識、技術取得の外に、時代のニーズにあった新しい農業の展開について学んでいます。

本校の主な農業クラブ活動としては、5月の田植え競技大会、生活科学科の早乙女ショーが名物です。同じく5月の、鶴田町富師見湖パーク植栽活動では、1万本の花で子どもたちと一緒に植栽を行います。

6月の青森県学校農業クラブ連盟大会。本年度は本校が事務局を担当し、平板測量競技では県大会三連覇を果たしました。また、東北大会でも平板測量競技は今年度最優秀賞を受賞しています。

7月、11月の校内農業鑑定競技会では、各学科毎に問題が作成され、学科の専門知識を競います。7月の農業鑑定競技会は、10月の全国大会の予選も兼ねます。

9月は秋の全校稲刈り大会では、猛暑を乗り越え、今年も美味しいお米を収穫できました。

10月の日本学校農業クラブ連盟全国大会。今年は岩見沢農業高校を事務局校に、札幌市を中心に行われました。全国大会では平板測量競技が3年連続の優秀賞、農業鑑定競技の、区分・生活科学では、2年連続で優秀賞を獲得し、全国制覇にはあともう一歩で惜しくも届きませんでしたが、一生懸命頑張りました。

2月には校内意見発表会があり、食料生産、環境、文化生活の3部門で、1、2年生の

各ホームルーム代表が熱い主張を繰り広げます。代表者は次年度の県大会選手となります。

年度末の3月は、校内課題研究発表会です。2年生の全生徒が課題研究という授業で取り組んだプロジェクト学習の研究成果を、意見発表と同じく3部門に分かれて発表します。それぞれの部門の最優秀発表者は、次年度の県大会出場チームとなります。

紹介者2

また、弘前のさくら野百貨店で、通常は学校で行っている五農市を開催しました。普段とは違う雰囲気の中、多くのお客さんと会うことで、よい学習ができたと思います。

9月には千葉県浦安市で行われた、浦安フェスティバルの五所川原立佞武多運行に、本校のねぶた同好会のメンバーが囃子隊として参加し、埼玉県立熊谷農業高校のクラブ員とともに運行し、思い出深い交流活動ができました。



その他にも様々な活動がありますが、この先の大きな行事としては、再来年度の平成24年度、農学校農業クラブ東北連盟事務局校となることが決まっています。東北のクラブ員をどのように迎えるか、そのための準備に取り組んでいます。

また、私たち農業クラブの役割として、農業高校として、また農業高校生として、できることを追い求めたいと思います。地域と連携し、広い視点を持って産業の枠を超えた活性化の架け橋となるよう、自分たちの特色を持って頑張っていきたいと思います。

知事（紹介の所感）

平成24年度は事務局校を務めるということで大変だと思いますが、しっかりと東北の農業の仲間、高校生の仲間のために運営してください。本当にご苦労さまでした。

◆生徒と知事との意見交換◆

発言者1（林業科3年 男子）

私は相撲部に入部し、3年間取り組んできました。今年6月の県高校総体で優勝し、8月に沖縄で開催されたインターハイに出場しましたが、ベスト16で敗退してしまいました。やはり、全国で優勝するには、練習を重ねることが大切だと思いますが、知事は他にどのようなことが大切だと考えますか。

知事

全国の高校生、1年生から3年生まで全学年が出場する中でベスト16に入って、さらにその上を目指すというのは、すごく大事だと思います。相撲と言えば、青森県、モンゴル、ロシアなど寒いところが強いですが、沖縄での大会ということでコンディションを整えるのが大変だったのではないのでしょうか。

どうやったらもっと強くなるのかというところですが、やはり練習の積み重ねだと思います。よく四股を踏めと言いますが、四股はどのくらい踏んでいますか。

発言者1（林業科3年 男子）

毎日200回踏んでいます。

知事

皆さんもいろいろなスポーツをやっているでしょうし、勉強もそうかもしれませんが、基礎中の基礎を一生懸命やり続けると、必ず本当の力がついて、そこから伸びていくのかなと思っています。亡くなった先代の横綱、若乃花の言葉で、「押さば押せ、引いたら押せ」、常に前へ出て戦う気持ち、ファイティングスピリットが大事だということを聞いたことがあります。気持ちが引かないで常に前へ向かっていく、そういうことが若い時には大事なのかなと思っています。知事の仕事も似たようなもので、常に走り抜く、前へ前へという気持ちでやっています。

高校の三年間で、一つのことにすごく打ち込んできたのだから、未来に目標を持ったら、その目標に向けて四股を踏む気持ちで、進んでいってこれればと思います。

発言者2（農業土木科3年 男子）

私は現在、12月の東北新幹線新青森駅開業に向けて、県内の高校8校で取り組んでいる「高校生おもてなしプロジェクト」に参加しています。その中で本校は「観光客に農業体験をしてもらう」などの企画を考えました。そこで知事は12月の開業をきっかけに、青森県全体で取り組んでいかなければならないことはどのようなことだと考えますか。

知事

高校生おもてなし隊として、おもてなしの心で活動してくれてありがとうございます。先ほど自分が高校生だったときの話をしましたが、そのときに新幹線が青森まで延伸されるという話が始まってから38年が経ち、やっと12月4日に新青森まで来ることになりました。

今一番取り組んでいかなければならないことですが、高校生おもてなし隊がやっていることと同じで、五所川原農林高校の皆さんには、旅の人だと思ったらニコッと笑いかけてほしいということです。

東北新幹線八戸駅開業の時に、八戸の民間団体の人たちが、八戸の言葉でいうと「よく来てくれました」という意味の「おんでやんせ八戸隊」という隊をつくり、八戸駅に新幹線が着いて、お客さんが降りてくると、「よぐ来たなしー」（よく来てくれました）と一生懸命声をかけました。あとでいろいろなアンケート調査をしたところ、八戸開業のときに県外の方々が一番うれしかったのは、八戸駅に降りたらニコニコしながら出迎えてくれたことだったということです。

よく来てくれましたという気持ちは、言葉で表さなくても伝わります。高校生おもてなし隊も含めて、ぜひ五所川原農林高校の皆さんには、よく来てくれましたという笑顔を旅行者の方に向けてほしいと思います。

将来は農業土木技術者として何をやりたいですか。

発言者 2（農業土木科 3年 男子）

青森県のために働く公務員になりたいと思います。

知事

今青森県では、水づくり土づくりということを一生懸命やっています。その中で、水循環システムの再生とあって、山に植林したり、自然石を使ったダムを造ったり、葦を植え替えたり、いろいろなことを行って、もう一度青森県の水をきれいにして、土を良くしようということをやっています。ぜひ一緒にやってくれたらうれしいと思います。

発言者 3（生活科学科 3年 女子）

私は将来看護師を目指しています。これからますます少子高齢社会が進むということで、看護師不足を含めた医療体制の弱体化が心配です。財政が厳しい状況の中で、難しい問題が山積していると思いますが、やはり何かしらの対策を講じていかなければならないと思っています。知事はこの問題に関してどのようにお考えでしょうか。

知事

青森県だけでなく、日本中で医師や看護師や理学療法師、リハビリの先生などの医療技術者が非常に足りなくなっています。その分野ではとても人材を求めています。だから今、そういった医療技術の方に進むのはとても素晴らしいことだと思います。

ここで小野西北地域県民局長に一言挨拶をしてもらいます。実はこの西北五地域のために、道路をつくること、農業の元気をつくること、軽トラック市などを行っているのが、西北地域県民局です。

小野西北地域県民局長

西北地域県民局では、病院の話から、農林水産の話、税金の話、保健所の話、地域の連

携の話、観光の話など、いろいろな分野を担当しています。医療の関係についても、西北管内でも病院の再編などいろいろな取組をしていますが、なかなか大変な問題だと思います。各関係市町村長さんが一生懸命に取り組んでいるところですが、我々が、県民や市民に身近に感じてほしいのは、自分の体を大事にしていくこと、病気にかからないことが、青森県にとっても西北管内に住んでいる人にとっても大事だと思っています。

ここで、軽トラック市というものを紹介したいと思います。軽トラック市ということですが、軽トラックを販売しているのではありません。軽トラックの上で開いている昼間の市で、西北管内の農林水産物をそれぞれの生産者が軽トラックに積んできて、立佞武多の館の通り250メートルの区間に、50台の軽トラックを並べて、野菜、魚、加工品などを販売しました。また、つゆ焼きそばやバラ焼きなども販売されました。6月から毎月一回開催され、10月11日が最終回でしたが、50台のトラックが出店して、一番売り上げの多かった人では3,4時間で20万円販売したという方がいます。平均して3万円から4万円の売り上げということで、来年度も継続して開催するということを考えています。

そこで、これまでは地元の商工会や農林水産の関係者だけで一生懸命やっていましたが、これからは、例えば地元の五所川原農林高校さんにも出店していただいて、一緒になって盛り上げたり、売ったりということもどうかと思っています。

知事

今小野県民局長から提案がありましたが、農業クラブの来年の会長は、ぜひ県民局と相談してくれたらうれしいと思います。

医療技術者の方、医師も看護師も同じで、本当に大切な仕事だし、足りなくなっています。県としての支援制度ですが、例えば看護師、助産師、保健師については、月額3万2千円、准看護師では月額2万1千円の修学資金を援助するという支援制度があります。医師を増やしていく戦略と同時に、看護師を含めた医療技術者の方々を育成するための戦略も進めています。ぜひ看護師の試験に合格して、いずれ青森県に看護師として来て、県民の皆さんを元気にしてくれたらうれしいと思います。

発言者4（生物生産科3年）

私の家では畜産を営んでいます。高校卒業後は、営農大学校に進学し、農業について学びたいと考えています。しかし、これからの農業は厳しい状況にあると、親からも聞いています。私は、そのような逆境を乗り越え、この青森県を農業から盛り上げていければと考えています。知事は、これからの青森県の農業について、どのようにお考えでしょうか。

知事

農業のことを真剣に考えてくれて、自分がこれから後を継いでいくと言ってくれたことには、知事としては大変に感激した思いです。

今青森県は攻めの農林水産業という政策を進めています。これから世界で足りなくなるものは何かと言ったら、まずは水資源、そして食料、それからエネルギー資源です。人間が生きていくために、エネルギーは絶対に必要ですが、その前に水と食料がなければ生きてはいけません。世界で爆発的に人口が増加し、石油や石炭を燃やすことでCO₂が増えてきて、今年の夏はすごく暑くなり、陸奥湾の海水温が上がりすぎて、ホタテが大量に死んでしまったりしたことなど、青森でも異常気象の影響が見られます。そういった中で、水資源と食料資源を確保していくことがますます大事になっています。

でも、今日本の国ひとつとってみても、カロリーベースでの食料の自給率が40%にしかなくなって、いろいろな食料を外国から買わなければいけないという状態にあります。もし日本の国が経済的におかしくなったら、国債という国の借金が増えすぎたりしたら、食べるものが買えなくなったりするような状態です。

食料を輸出していたはずの中国でも、大豆は他の国から輸入するようになり、ニンニクも輸出できないくらい足りなくなったということです。中国の農業も、水が足りなくなった、良い土が無くなったということで、中国でも食料の危機が叫ばれています。

これから実際に、我々にとって食べ物がすごく大事な時代がやって来ます。そのときに、まず良い土と、その良い土をつくるための良い水資源があって、そして水と土だけではなく、農業できちんともものをつくることができる技術者が必要です。私は農業をやっている人たちは先端技術者だと思っています。安全安心だけでなく、美味しいものを効率よくつくる、農業とは最先端技術のひとつだと思っています。

青森県の今の状況を考えた場合に、急に石油化学コンビナートや、IT産業など、二次産業の町に生まれ変わることは、実際は厳しいと思っています。青森県の得意分野を見つけて、得意分野を皆さんで伸ばしていく、そのことが大事だと思います。

今一生懸命力を入れている得意分野が農林水産業です。そこで、攻めの農林水産業として、ただつくるだけでなく、つくったものをきちんと売るための仕組みを考えようということを、この8年間一生懸命進めてきました。

青森県ではりんごの他にも、海が近いのでイカ、鯛、マグロなどが捕れたり、陸奥湾ではホタテが捕れたり、日本人だけではなく、中国や台湾など世界中の誰もが食べて、美味しいと言ってくれるものをつくってくれています。牛もそうで、第一花国という優れた牛のおかげで、すごく高値で取引をしてもらっています。

五所川原農林高校の皆さんに言いたいことは、青森県はもっと食料産業を大切にする、伸ばしていくことが大事だと思いますし、世界中の食べ物が足りなくなってくるのだから、ますます食べ物をつくる産業は大事になってくる、絶対に将来性があると思っています。食べ物をつくれる地域や人が、一番輝いてくる時代が絶対に来ると思っています。

そこで、もう一度攻めの農林水産業に戻りますが、この五所川原や青森県でとれたものを、自分たちで大切にして食べようという地産地消を基本として、青森の人たちが美味しいと言ってもらえるものを、県外や国外にどんどん売っていこうということが、攻めの農

林水産業という政策です。県としては最大級に力を入れています。

実はこの攻めの農林水産業を進めるにあたって、先ほど水づくりや土づくりの話をしました。青森県は日本で一番水づくりを一生懸命やっています。土づくりも、農業従事者の方々に土壌分析キットを配って、窒素が多すぎるとか、リン酸が足りないとか、通信簿みたいなものをつくるなど、いろいろなことをやっています。



でも、一番一生懸命力を入れているのは、人づくりです。若手農業トップランナー育成事業といって、若手の農業者に毎年25人くらい集まってもらって、自分たちで財務、経営管理、マーケティング、生産をし、レポートをつくり、勉強会を行って経験を積んでもらうということをしています。そうことをやって、水づくり、土づくり、人づくりということで、農業を根底から元気にしようということを一生涯懸命進めています。

更に今進めているのが、農業の6次産業化です。 $1 \times 2 \times 3$ で6、 $1 + 2 + 3$ でも6ですが、1というのは1次産業、農業で、2は加工、3は流通です。

給食で食べたことがあるかもしれませんが、りんごハンバーグというのがあり、その材料のりんごはもちろん青森県産です。でもこのりんごは、貨物列車で神奈川に運ばれて、ハンバーグに加工されて青森に帰ってきていました。例えばりんごとして売ったときに10円の利幅があったとします。でもハンバーグに加工したときに60円の利幅で神奈川から来るとすれば、青森県では収支がマイナス50円です。

青森県は、1次産業では世界で一番になるくらい良いものをつくっていますが、加工分野や流通分野が弱かったのです。しかし県の総合販売戦略課という、いろいろなものを全国に売って歩く課などで、攻めの農林水産業を進めることによって、つくったものを売っていく販路や商談会などの仕組みができました。そこで我々は、青森県でも1次産業と2次産業と3次産業が一体となった、6次産業化ということを今年から本格的に始めるようにしています。

青森県の得意分野は農林水産業ですが、それと結びつく観光ということで、皆さんも修学旅行生や、畑やりんごの果樹園で収穫を手伝っている旅行者の相手をしたことがあるかもしれませんが、そういったグリーンツーリズムのように、1次産業を観光にするということにも一生懸命力を入れています。大学に行ってしっかり勉強して、ぜひ県がやっている農業トップランナー構想で頑張ってもらいたいと思います。

それから、五所川原農林高校の皆さんにお話したいことがあります。青森ではコシヒカリ系統の米で、まっしぐらという米をつくりました。まっしぐらという米はすごく色白で、ふっくらとしていて、味もさわやかで、一生懸命売り出していたのですが、米粉にすると一番酵母と相性がよいということが分かり、皆さんのご両親がつくっている米が、青森県

の、特に西北地域でつくっているまっしぐらが、米粉パン、ピザの生地、シュウマイの皮、など小麦アレルギーの人でも食べられるものとして全国発売されることになりました。せっかく地元の米粉でつくったパンやピザが発売されるので、もしお店で見かけたら、西北の農業ってすごいなって思ってください。

発言者 5（食品科学科 3 年）

私は 3 年間食品化学科で勉強してきた中で、果肉まで赤いリンゴ「御所川原」のジャムやジュース製造を行いました。五所川原市の特産である「御所川原」のジャムを利用したパンの製造を外部企業との連携で製作したのですが、地域の特産を売り込むのになかなかいい案が無い場合には、知事はどのようなことをしてみたらよいと思われますか。

知事

先ほどお話ししたこととつながってきますが、つくったけれども、あるいはどうつくるかも分からないということもあります。どうつくるか分からないというときは、青森県でいろいろな試験研究機関を持っているので、県民局地域連携部にご相談ください。|



小野西北地域県民局長

農業関係の新しい食品の開発やマッチングなども、西北地域県民局の地域農林水産部というところでやっています。西北管内は農業が非常に盛んな地域で、青森県の産業に占める 1 次産業の比率というのは、全国一で 14% なのですが、ここ西北管内では 22.9% ということで、県の中でも特に農業が盛んな地域です。先ほど知事から、日本全体で考えても世界で考えても、農業は非常に大事というお話がありました。西北管内においても農業が産業の中でのメインです。西北管内の農地面積は 21,000 ヘクタールあるそうですが、これは県内農地面積の 40% を占めています。岩木川の兩岸を見ていると田んぼの連続ですが、白神山地、岩木川の水でつくった美味しい米があり、西北管内は特に米に関する技術が非常に高いところです。特につがる市、五所川原市、中泊町の方は、ほとんど米を主体にした地域です。

米については決してよい状況ではありませんが、西北地域県民局でも米粉を使ったケーキなど様々なメニューを考案したり、婦人会に集まっていただいて研究会をしたりという取組をしています。もし米や農産物に関する疑問などがありましたら、西北地域県民局の中に農業普及振興室というところがあり、自信を持ってやっているので、ご相談いただければ何かのアイディアを出せると思います。

知事

加工とか、何かつくってみたいというときにも応援できる仕組みがあります。また、先ほど話をした総合販売戦略課というところで、商社、コンビニ、大手量販店などいろいろなチャンネルを持っていて、どのチャンネルと一番合うのかということを考えて、販売していくということができる仕組みをつくりました。それらを使って6次産業化を進めるぞということで、流通・加工の分野も一生懸命やっています。

◆知事所感◆

知事

五所川原農林高校の皆さん、今日はありがとうございました。意見交換をしたのは3年生の5人だけですが、それぞれが未来に向かって、あるいは悩みもあるでしょうが、すごく生き生きと高校の大切な3年間で過ごしてくれている、そして1、2年生もこれからいろいろなことをしてみたいなと思ってくれている、そういうことを感じました。皆さんののびのびとしてくれている、そのことはやはり先生方がのびのびと育てようと、人生を思いっきり楽しませようとしてくれているということだと思います。人生では、仕事をしたり、結婚したり、子どもを育てたり、いろいろなことがこれから待ち構えていると思いますが、高校時代の同級生はどんなときにでも助けてくれる大切な仲間だと思います。ここで一緒に学んだこと、お昼を食べたこと、スポーツをしたこと、ここで育ったこと、育まれたことを大切に、それぞれの未来に向かって進んでいってくれたらいいと思います。

県が今一番何をしているかといったら、未来の皆さんが青森でも、世界のどこでも頑張れるような、そういう青森県であり、日本であり、世界であってほしい、そのための準備を一生懸命しています。五所川原農林高校の皆さんが、未来に向かってそれぞれしっかりと進んでくれることを願って、そしてとても素晴らしい討論会してくれた5人に感謝申し上げ、あいさつとします。今日はありがとうございました。



了